

評価基準

資料4

全体として、前回から大きく変更はせず、各委員が外部評価シートにおいて、評価のポイント等を記載いただくこととしました。

評価項目	A 優れている (期待を上回る、非常的に確に捉えている)	B やや優れている (期待をやや上回る、妥当である)	C やや劣っている (期待をやや下回る、内部の評価が過大過小 又は記載内容に不足がある)	D 劣っている (期待を下回る、内部の評価が大きく過大過小 又は記載内容に多くの不足がある)
目標実現に資する取組となっているか。	施策における各取組の全てが、各取組成果（中期成果）に寄与する内容で進められている。 各取組の成果施策の目標や求める成果（長期成果）の達成に向かっていく。	各取組の成果が、施策の目標や求める成果（長期成果）の達成に向かっていくかについて現時点では明確となっていない。	施策における取組のうち一部は、各取組成果（中期成果）に寄与する内容で進められているが現時点では明確ではない。	施策を構成する各取組全体について、各取組成果（中期成果）に寄与する内容で進められているかは現時点では明確ではない。
評価基準に記載された以外の視点からの評価を行う場合も、外部評価シートに記載いただくこととしました。				
取組状況	市民等のニーズに即した取組となっているか。	常に社会情勢や対象からの意見、利用状況などを適切に把握した上で内容を検討しながら進めている。	社会情勢や対象からの意見、利用状況などを把握した上で取組を進めているが、把握すべき内容や手法の一部に改善が求められる。	社会情勢や対象からの意見、利用状況などを把握すべき内容や手法が大きく不足している。又は、把握しても取組に反映されていない。
	各分野間で必要な連携が図られているか。	各取組成果（中期成果）や施策の成果（長期成果）の実現に向けて、後期基本計画62ページの各取組において示した各関連分野以上で情報共有や連携が効果的に図られており、分野単独のみでは得られない成果に結びついていることが明確である。	各取組成果（中期成果）や施策の成果（長期成果）の実現に向けて、後期基本計画62ページの各取組において示した各関連分野において情報共有や連携が図られており、分野単独のみでは得られない成果に結びついていることが明確である。	各取組成果（中期成果）や施策の成果（長期成果）の実現に向けて、後期基本計画62ページの各取組において示した各関連分野において情報共有や連携が図られているが、分野単独のみでは得られない成果に結びついていることが現時点では明確でない。又は各関連分野の一部では情報共有や連携が図られているが、現時点では不十分である。
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	各取組において、可能な限り市の取組を積極的に市民等に発信し、意見やアイデアを募集して施策に反映する、参加・協働を促すなど市民等が関われるように効率的に進められている。 対象となる市民等が積極的に意見やアイデアを発信する、市や他の実施主体と協働していることが明らかである。	各取組において、市の取組が市民等に発信され、意見やアイデアを募集して施策に反映する、参加・協働を促すなど市民等が関われるように図られているが、さらなる情報発信・共有の工夫や参加・協働を促す工夫が可能である。 対象となる市民等が意見やアイデアを発信する、市や他の実施主体と協働している例もあるが、さらなる参画が可能である。	各取組において、市の取組が市民等に発信されているが、意見やアイデアを募集して施策に反映する、参加・協働を促すなど市民等が関われるものが他にないにもかかわらずできていない。 市民等が関われるように進められているが、対象となる市民等が意見やアイデアを発信できる、市や他の実施主体と協働できる状況であるにもかかわらず行われていない。
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。 (短期及び中期を中心とする)	定量的評価・定性的評価両面において、各事業の成果（短期成果）、中期成果の達成が明確である。 施策の成果（長期成果）の早期の達成も見越せる状況である。	定量的評価・定性的評価両面において、各事業の成果（短期成果）、中期成果が達成に近づいていることが明確である。 後期基本計画の終了時（令和7年(2025)度）における施策の成果（長期成果）の達成も見越せる状況である。	定量的評価・定性的評価両面において、各事業の成果（短期成果）が表れているが、中期成果が達成に近づいていることが現時点では明確にはわからない。 現時点では、後期基本計画の終了時（令和7年(2025)度）における施策の成果（長期成果）の達成にはいっそうの改善が必要であると考えられる。
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	進捗状況を正しく把握していると考えられる。 施策の求める令和7(2025)年度の成果の達成に向けた当該年度の状況について、各取組内容や定量的評価、定性的評価などを的確に行っている。 遅れていると判断した場合は、遅れている要因が正しく分析されている。	進捗状況を正しく把握していると考えられる。 施策の求める成果の達成に向けた当該年度の状況について、各取組内容や定量的評価、定性的評価を正しく行っているが、評価の理由に補足を求める。 遅れていると判断した場合は、遅れている要因の分析以外に他にも要因があると考えられる。	進捗状況が1段階異なると考えられる。 進捗状況は正しく把握しているが、評価の内容と合っていない、または評価の記載に大きく不足がある。 施策の求める成果の達成に向けた当該年度の状況について、各取組内容や定量的評価、定性的評価などを行っているが、評価の内容と進捗状況の評価が異なると考えられる。 遅れていると判断した場合は、遅れている要因の分析が不十分である。
改善	問題や課題が的確に捉えられているか。	取組状況や評価における問題点、遅れている取組の原因を基に、施策の実現に向けて何が求められているかについて短期的な課題と中長期的な課題に分けて正しく過不足なく把握しており、課題が解決できれば施策の実現が見込まれる。	取組状況や評価における問題点、遅れている取組の原因を基に、施策の実現に向けて何が求められているかについての課題が捉えられているが、短期・中長期的の分類が一部異なる。又は施策の実現に向けて他にも課題が考えられる。	課題があると考えられるにもかかわらず課題があげられていない。 記載されている課題は施策の実現に向けたものと認められない。
	今後の方向性・進め方は的確か。	方向性（改善策）が課題の解決につながるものであり、取組の成果（中期成果）や施策の成果（長期成果）の達成に結びつくことが明確である。 進め方において「補完性の原理」を踏まえた市民自治に基づき、行政や市民等の役割分担を適切に捉えている。	方向性（改善策）が課題の解決につながるものであり、取組の成果（中期成果）や施策の成果（長期成果）の達成に向かうものではあるが、さらなる改善策を求める。 改善策は左記「優れている」に該当するが、進め方において、「補完性の原理」を踏まえた市民自治に基づき、行政や市民等の役割分担に変更の余地がある。	方向性（改善策）が課題の解決につながり、取組の成果（中期成果）や施策の成果（長期成果）の達成に向かうものであるが現時点では明確でない。 進め方において、「補完性の原理」を踏まえた市民自治に基づき、行政や市民等の役割分担に変更の余地がある。
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	評価がPDCAの一連の流れで理解できるように記載されており、かつ、市民の誰もが理解しやすいよう、専門的な用語は注釈や言い換えなどで配慮した上で平易な表現が用いられている。	評価がPDCAの一連の流れで理解できるように記載されており、専門的な用語は配慮した上で平易な表現が用いられるよう図られているが、一部、専門的な用語の使用など表現に工夫が必要である。	専門用語が多く、市民にとって理解しにくい表現が用いられ、かつ評価がPDCAの一連の流れで理解できるように記載されていない。
総合評価	施策の総合評価	現状分析から問題点の把握、課題の抽出、解決策の立案といったPDCAサイクルの各段階での把握が的確であり、令和7(2025)年度における施策の実現に向けて着実に進んでいることが明確であることに加え、他分野等との連携や市民等との役割分担も適切であり、また、市民等も理解しやすい表記である。	令和7(2025)年度における施策の実現に向けて着実に進んでいることは明確であるが、PDCAサイクルの各段階での記載内容、他分野等との連携や市民等との役割分担、市民等も理解しやすい表記のいずれかに改善の余地がある。	PDCAサイクルの各段階での把握が不十分であり、令和7(2025)年度における施策の実現に向かっていると認められない。さらには他分野等との連携や市民等との役割分担、市民等も理解しやすい表記にも改善の余地がある。
		その他の視点		